

～下記の研究を行います～

## 『HIV 感染症患者におけるシスタチン C とクレアチニンを用いた腎機能評価の検討』

【研究責任者】 榎田 宏幸

【研究の目的】 血清シスタチン C 濃度(Cys-C)は、食事や炎症、年齢、性差、筋肉量などの影響を受けにくいとされています。しかし、HIV 感染症患者さんにおいて、HIV-RNA 量が Cys-C を変動させることが報告されており、HIV 感染症患者さんに利用できるか不明な点も多い。今回、HIV 感染症患者さんにおける血清クレアチニン濃度 (Cre) と Cys-C を用いた腎機能評価の特性を検討します。

【研究の期間】 研究許可日～2022 年 3 月 31 日

【研究の方法】

●対象となる患者さん

2019 年 1 月から 2019 年 12 月に大阪医療センター外来通院中で、抗 HIV 薬を内服中でウイルス量が 50copies/ml 未満で、Cre と Cys-C を同時測定されている方です

●研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：患者背景（性別、年齢、体重、AIDS 発症の有無）、臨床検査値（CD4 陽性 T リンパ球数、HIV-RNA 量、血清クレアチニン値、血清シスタチン濃度）など

【研究の資金源】

なし

【利益相反】

臨床研究における利益相反（COI(シーオーアイ)：Conflict of Interest)とは、「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

なお、本研究の利益相反については、当院の利益相反審査委員会で審査され適切に管理されています。

◎本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

◎ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、

研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

◎情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

国立病院機構大阪医療センター  
〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2丁目1-14  
TEL (06) 6942-1331 (代)  
研究責任者 薬剤部 主任薬剤師 櫛田 宏幸